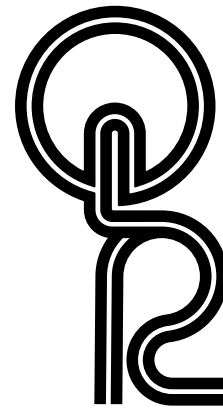


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 8 No. 4, 2001



中央構造線活断層系・畑野断層の発掘調査で現れたチャンネル充填堆積物の右ずれ・南北(写真では左右)方向のチャンネル堆積物が、断層付近(人物の足下付近)で東西に向きを変える。最新活動の際に2~3m変位したことが推定される。

(撮影:遠田晋次)

Vol. 8 No. 4		July 1, 2001	
日本第四紀学会 2001 年大会	2	公開シンポジウム案内	15
2001 年大会プログラム	5	第四紀研究連絡委員会議事録	16
TEFRATRACE	11	古生物学研究連絡委員会議事録	17
Environmental Sedimentology		INQUA 招致検討会議事録	17
Workshop	12	第四紀学会幹事会議事録	17
IGCP-464	14	会員消息	18
IGCP-437	15		

日本第四紀学会 2001年大会 - 総会・研究発表会 (第4報)

シンポジウム・普及講演会
会 場

日本第四紀学会・鹿児島大学総合研究博物館共催
鹿児島大学教育学部大講義室・稲盛会館

1. 日程の概要
一般研究発表, シンポジウム, 普及講演会, 総会, 評議員会, 懇親会, 巡検
2. 会場案内 鹿児島大学
3. 講演要旨集
4. 参加費
5. 懇親会
6. 大会プログラム
大会特別価格ブックセール
学会からのお知らせ (委任状のお願い)

1. 日程

2001年8月1日(水) 一般研究発表 教育学部 101号大講義室
9:00 ~ 10:24 オーラルセッション (O1 ~ O7)
10:24 ~ 10:36 コーヒーブレイク
10:36 ~ 11:12 オーラルセッション (O8 ~ O10)
11:12 ~ 12:00 ポスターセッション ショートサマリー発表 (P1 ~ P24)
12:00 ~ 13:00 昼休み (幹事会 教育学部中会議室)
13:00 ~ 15:00 ポスターセッション 教育学部大会議室
15:00 ~ 16:24 オーラルセッション (O11 ~ O17)
16:24 ~ 16:36 コーヒーブレイク
16:36 ~ 18:00 オーラルセッション (O18 ~ O24)
18:10 ~ 20:00 評議員会 (教育学部大会議室)
ポスター展示時間 9:00 ~ 18:00 教育学部大会議室

2001年8月2日(木) 一般研究発表 教育学部 101号大講義室
9:00 ~ 10:00 オーラルセッション (O25 ~ O29)
10:00 ~ 12:00 日本第四紀学会総会 教育学部 101号大講義室
12:00 ~ 13:00 昼休み
13:00 ~ 14:36 オーラルセッション (O30 ~ O37)
14:36 ~ 16:00 ポスターセッション・コーヒーブレイク 教育学部大会議室
16:00 ~ 17:36 オーラルセッション (O38 ~ O45)
18:00 ~ 20:30 懇親会 (教育学部生協食堂:エデュカ)
ポスター展示時間 9:00 ~ 17:30 教育学部大会議室

2001年8月3日(金) シンポジウム 教育学部 101号大講義室
「南九州における縄文早期の環境変遷」
9:00 ~ 17:00 シンポジウム講演 (S1 ~ S11)

2001年8月4日(土) 普及講演会 (一般公開, 文部科学省科学研究費補助金交付事業)
「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」

鹿児島大学稲盛会館

13:00 ~ 17:00 講演 (L1 ~ L3)

2001年8月4日(土) 巡検

「薩摩半島南部(指宿地域)の遺跡とテフラ」

案内者 成尾英仁(鹿児島県博)・大木公彦(鹿児島大)

8:30 ~ 16:30 (詳細は大会第3報を参照のこと)

- * オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ベルは1鈴8分、2鈴10分、終鈴12分です。2鈴で講演を終え残り時間を質疑に充ててください。
- * スライドとOHPはそれぞれ1台ずつ、同時に使用可能です。
- * 一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計で8枚以内をお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出して下さい。各スライドには順番、上下左右を明記するか、あるいはご自分でマガジンに入れて下さい。OHPはご自分で操作して下さい。
- * ポスターセッションは横90cm、縦180cmのパネルが用意され、ポスターの展示は2日間通しが可能です。掲示期間は8月1日(水)9:00 ~ 8月2日(木)17:30とします。懇親会が始まる18:00までに、各自の責任でポスターを撤去願います。なお、1,2日午後のポスターセッション・コーヒープレイクの時間には質問等が受けられるよう、発表者はできる限りポスターセッション会場に居て下さい。
- * ポスターセッション講演者にはオーラル講演の間に1件2分以内のショートサマリー発表の時間が与えられます。2枚以内のOHPを使って要領よくセールスポイントを伝えて下さい。

2. 会場

一般研究発表・総会・シンポジウム：鹿児島大学教育学部101号大講義室
(鹿児島市郡元1-20-6, Tel 090-7580-3087)

普及講演会：鹿児島大学稲盛会館

(鹿児島市郡元1-21-40, Tel 099-285-8202)

交通案内：次ページの地図、鹿児島大学ホームページ掲載の所在地案内など参照。
鹿児島大学構内には自由に駐車できるスペースはありません。また、大学周辺には利用可能な有料駐車場はほとんどありません。車での参加は止め、公共交通機関をご利用下さい

懇親会：鹿児島大学教育学部生協食堂(エデュカ)
(会場の位置は研究発表会場でお知らせします)

大会連絡先：井村隆介

鹿児島大学理学部(ホームページ：<http://www.kagoshima-u.ac.jp>)

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-35

Tel 099-285-8144(ダイレクトイン)

Fax 099-259-4720

e-mail imura@sci.kagoshima-u.ac.jp

巡検については：成尾英仁

〒892-0823 鹿児島市城山町1-1

Tel 099-223-6050

Fax 099-223-6080

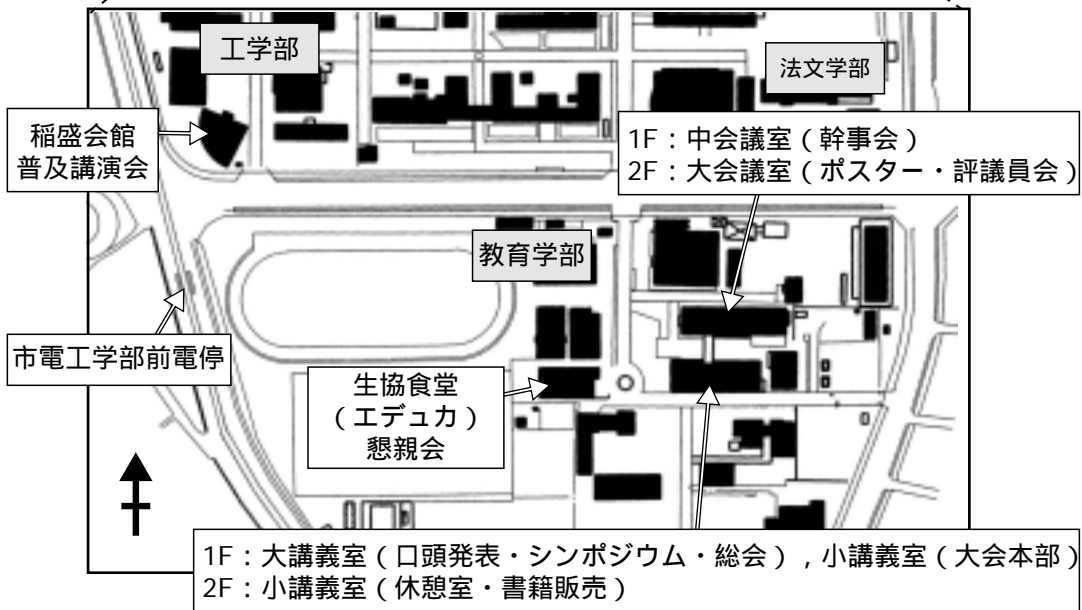
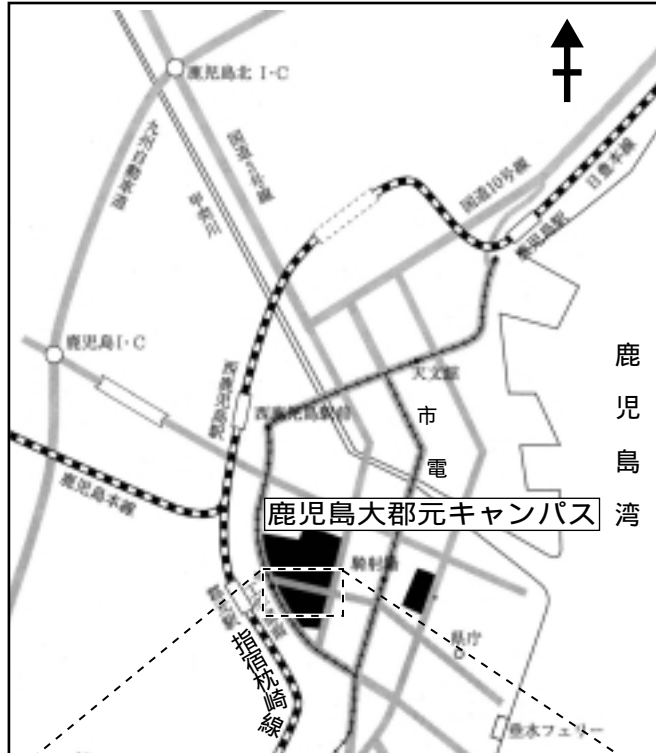
e-mail naruo@po.minc.ne.jp

大会実行委員会

委員長：大塚裕之

委員：井村隆介, 岩船昌起, 大木公彦, 小林哲夫, 笹川幸雄, 塚田公彦, 成尾英仁, 森脇広

会場のご案内



JR 西鹿兒島駅から駅前の市電 (郡元行き) を利用し, 「工学部前」下車。徒歩すぐ。

3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売します。定価は2,000円です。通信販売もいたしますので購入ご希望の方は、学会事務センター（日本第四紀学会事務局）に申し込んで下さい。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21

（財）日本学会事務センター 事業部

TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

4. 参加費

参加費として2,000円を徴収し、大会運営経費の一部に充てます。
ご理解、ご協力をお願いいたします。

5. 懇親会

8月2日（木）18:00から

場所：鹿児島大学教育学部生協食堂（エデュカ）

参加費；一般：5,000円，学生：2,500円

8月1日（水）から第四紀学会会場で受け付けます。

6. 大会プログラム

シンポジウム「南九州における縄文早期の環境変遷」

世話人：小林哲夫・森脇 広

3日目：8月3日（金）：教育学部101号大講義室

No.	講演時間	題目・氏名
	9:00-9:10	シンポジウム趣旨説明
		< 上野原遺跡（縄文文化の芽生えと環境） >
S1	9:10-9:45	南九州におけるAT噴火以降のテフラの年代学的研究 奥野 充(福岡大・理)
S2	9:45-10:20	上野原遺跡周辺の植生と環境 杉山真二(古環境研)
		コメント
S3	10:20-10:30	化石からみた鹿児島湾の環境変遷 大木公彦(鹿児島大学総合研究博)
		休憩 30分 (10:30-11:00)
S4	11:00-11:35	南九州縄文時代早期の先駆性 - 国分市上野原遺跡の調査事例から 黒川忠広(鹿児島県埋文セ)
S5	11:35-12:10	桜島火山の噴火災害の歴史 小林哲夫(鹿児島大・理)
		コメント
S6	12:10-12:20	火山災害の評価と適応戦略に関する考古学的アプローチ - 橋牟礼川遺跡の事例から - 下山 覚(指宿市教育委員会)
		昼食 1時間10分 (12:20-13:30)
		< 鬼界 - アカホヤ噴火は南九州にどのような影響をあたえたか? >
S7	13:30-14:05	アカホヤ噴火と完新世の地形変化 森脇 広(鹿児島大・法文)
		コメント
S8	14:05-14:15	アカホヤ噴火に伴って発生した巨大地震 成尾英仁(鹿児島県立博)
S9	14:15-14:50	アカホヤ噴火が縄文文化(人間生活)に与えた影響 新東晃一(鹿児島県教育委員会)
		コメント

2001年第四紀学会大会

- S10 14:50-15:00 植生の変遷 - 自然環境への影響 松下まり子(神戸大)
 休憩 20分 (15:00-15:20)
- S11 15:20-15:55 鬼界アカホヤ火山灰と九州縄文時代早期の土器編年
 桑畑光博(宮崎県都城市教育委員会)
- 総合討論 16:00-17:00 南九州における縄文早期の環境変遷
 司会：井村隆介(鹿児島大・理)

普及講演会

「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」
 鹿児島大学総合研究博物館と共催(科学研究費補助金「研究成果公開促進費」補助事業)
 4日目：8月4日(土)：13:00-17:00 鹿児島大学稲盛会館

- | | | |
|-----|----------------------|--|
| No. | 講演時間 | 題目・氏名 |
| | 13:00-13:10 | 趣旨説明 講演会世話人 大塚裕之(鹿児島大) |
| L1 | 13:10-14:00 | 考古学からみた新・海上の道 小田静夫(東京都教育庁) |
| L2 | 14:00-14:50 | 「北からと南からと,そして西からも - 植物の場合」 南西諸島の植物地理
- 分布と分化の過程 堀田 満(西南日本植物情報研) |
| | 休憩 30分 (14:50-15:20) | |
| L3 | 15:20-16:10 | 南西諸島の動物たち：それらの来た時期と来た道 大塚裕之(鹿児島大) |
| | 総合討論 16:10-17:00 | 司会：小池裕子(九州大学) |

一般研究発表 オーラルセッション 1日目：8月1日(水)

教育学部 101号大講義室

- | | | |
|-----|-------------|--|
| No. | 講演時間 | 題目・氏名 |
| O01 | 9:00-9:12 | 北海道東部サロマ湖周辺域における10～17世紀の海水準変動
..... 添田雄二・赤松守雄(北海道開拓記念館) |
| O02 | 9:12-9:24 | 気候の急激な温暖化に対する植生の応答：最終氷期末期の湿原植生の変化
..... 紀藤典夫(北教大函館)・新谷世生子 |
| O03 | 9:24-9:36 | 下北半島・上北平野における海成段丘の形成と野辺地層の埋積過程および
第四紀地殻変動 桑原拓一郎(都立大・院) |
| O04 | 9:36-9:48 | 東北日本弧の大規模火砕流にともなう中期更新世広域テフラ - 八甲田国本
テフラ 鈴木毅彦(都立大)・
Dennis Eden・檀原 徹(京都FT)・藤原 治(JNC 東濃地科学セ) |
| O05 | 9:48-10:00 | 東北北部古代土器の胎土分析 松本健速(筑波大・院) |
| O06 | 10:00-10:12 | 新潟県下,沖積粘性土層における堆積環境と電気伝導度・自然含水比の関
係 安井 賢(新潟基礎工学研)・神蔵勝明(両津高)・小林巖雄(新潟大) |
| O07 | 10:12-10:24 | 越後平野に埋没した縄文時代中～後期の遺跡と砂丘列
..... ト部厚志・高浜信行(新潟大)・寺崎裕助(新潟県埋文事業団) |
| | 10:24-10:36 | コーヒープレイク |
| O08 | 10:36-10:48 | 新潟砂丘の形成年代
..... 鴨井幸彦(株)興和)・安井 賢(新潟基礎工学研)・小林巖雄(新潟大) |
| O09 | 10:48-11:00 | 北部フォッサマグナ西縁,糸魚川 - 静岡構造線の鮮新世以降の活動史 ..
..... 植木岳雪(都立大・院) |
| O10 | 11:00-11:12 | 急速埋没イベントを示す貝類化石群：千葉県館山市に分布する完新統の例
..... 鎌滝孝信・藤原 治(サイクル機構東濃地科学セ) |
| | 11:12-12:00 | ポスターセッション ショートサマリー(P1-P24,各2分) |
| | 12:00-13:00 | 昼食休憩(幹事会：教育学部中会議室) |
| | 13:00-15:00 | ポスターセッション：教育学部大会議室 |

- O11 15:00-15:12 南関東の累積性火山灰土壌における腐植成分と風化指標との関係 大井隆志・坂上寛一・鈴木創三・田中治夫(東京農工大)・渡邊眞紀子・青木久美子(東京工業大)
- O12 15:12-15:24 東京湾西岸, 多摩川低地における完新世の古環境変遷 増淵和夫(川崎市青少年科学館)・杉原重夫(明治大)・上西登志子(自然史研究会)・浜田晋介(川崎市市民ミュージアム)
- O13 15:24-15:36 大磯丘陵酸素同位体ステージ5e付近の埋没土層における腐植酸Pgの特性 野澤智明・渡邊眞紀子(東工大)・細野 衛(東京自然史機構)
- O14 15:36-15:48 離水海岸地形・生物遺骸の高度分布からみた三浦半島南部における完新世地震性地殻変動 穴倉正展(産総研・活断層研究センター)・越後智雄(千葉大・院)
- O15 15:48-16:00 富士五湖山中湖ボーリングコアの岩相とテフラ層序 内山 高・輿水達司(山梨県環境科学研)
- O16 16:00-16:12 中部 - 関東地方における MIS8 付近のテフラの対比 中里裕臣(農業工学研)・鄭 重(総合開発(株))
- O17 16:12-16:24 静岡と石垣島における赤色土壌中のヘマタイトとゲータイト含量の比較 SOURJ, Bubak・坂上寛一(東京農工大)
- 16:24-16:36 コーヒーブレイク
- O18 16:36-16:48 伊豆諸島, 御蔵島と八丈島の湿原堆積物の花粉分析 関口千穂・叶内敦子(明治大)
- O19 16:48-17:00 伊豆・小笠原弧の構造区分と火山岩量 藤岡換太郎・木戸元之(海洋科学技術セ)
- O20 17:00-17:12 福井県中池見における中期更新世堆積物の花粉分析に基づく対比と古環境 大井信夫(ONP 研究所)・北田奈緒子・宮川ちひろ・斎藤礼子(財)地域地盤環境研・岡井大八(大阪ガス)
- O21 17:12-17:24 渥美半島の海成第四系層序と海成段丘の区分に関する再検討 池田 誠・菊地隆男(都立大)
- O22 17:24-17:36 鳥羽市相差の湿地堆積物に見出されるイベント堆積物(その1) 三田村宗樹(大阪市大)・岡橋久世(京都大)・廣瀬孝太郎・吉川周作・内山美恵子(大阪市大)・中村俊夫(名古屋大)・原口 強(復建調査設計)
- O23 17:36-17:48 鳥羽市相差の湿地堆積物に見出されるイベント堆積物(その2) 岡橋久世(京都大)・秋元和實(熊本大)・三田村宗樹・廣瀬孝太郎・吉川周作・内山美恵子(大阪市大)・原口 強(復建調査設計)
- O24 17:48-18:00 鳥羽市相差の湿地堆積物に見出されるイベント堆積物(その3) - 珪藻化石群集変化と過去約 6000 年間の環境変遷 - 廣瀬孝太郎・吉川周作・三田村宗樹(大阪市大)・後藤敏一(近大・医)・岡橋久世(京都大)・内山美恵子(大阪市大)
- 18:10-19:40 評議員会(教育学部大会議室)

一般研究発表 オールセッション(続き) 2日目: 8月2日(木)
教育学部 101号大講義室

- O25 9:00-9:12 滋賀県伊吹町寺林に分布する山麓堆積物の年代 里口保文・山川千代美(琵琶湖博物館)・此松昌彦(和歌山大)
- O26 9:12-9:24 琵琶湖, 過去 13 万年間の高解像度珪藻生産量記録から読み取れる数千年周期の気候変動 加三千宣・吉川周作(大阪市大)・井内美郎(愛媛大)
- O27 9:24-9:36 兵庫県豊岡市香住荒原遺跡でみられた縄文時代後期の貝塚および原地性貝化石層の産状 別所秀高(財)東大阪市文化財協会・木庭元晴(関西大)・瀬戸谷 皓・宮村良雄・中村由美(豊岡市出土文化財管理セ)・貝柄 徹(関西外大)・松田順一郎(財)東大阪市文化財協会)
- O28 9:36-9:48 山陰地域中央部における中～後期完新世の花粉組成変遷 - 地域花粉帯と古環境変遷 - 渡辺正巳(文化財調査コンサルタント(株))

2001年第四紀学会大会

- O29 9:48-10:00 瀬戸内海周辺地域に分布する下部，中部更新統と両者間の堆積間隙 水野清秀(産総研・活断層研究センター)
 10:00-12:00 日本第四紀学会 2000年総会(教育学部101号大講義室)
 12:00-13:00 昼食休憩
- O30 13:00-13:12 長崎県西山水源池堆積物(その1) - 原爆の「黒い雨」 - 吉川周作(大阪市大)・山崎秀夫(近畿大)・長岡信治(長崎大)・三田村宗樹(大阪市大)・兵頭政幸(神戸大)・内山 高(山梨県)・内山美恵子(大阪市大)
- O31 13:12-13:24 長崎県西山水源池堆積物(その2) - 「微粒炭分析」 - 井上 淳・吉川周作(大阪市大)・長岡信治(長崎大)
- O32 13:24-13:36 長崎県西山水源池堆積物(その3) - 重金属元素 - 稲野伸哉(大阪市大)・山崎秀夫(近畿大)・三田村宗樹・吉川周作(大阪市大)
- O33 13:36-13:48 長崎県西山水源池堆積物(その4) - 珪藻分析 - 中垣玲子・加 三千宣・広瀬孝太郎・吉川周作(大阪市大)
- O34 13:48-14:00 雲仙噴火に伴う降下火山灰の環境への影響 磯 望(西南大)・陶野郁雄(環境研)・黒田圭介(福教大・院)
- O35 14:00-14:12 人吉盆地西部の扇状地とテフラとの関係 黒木貴一・高本 隆(福岡教育大)
- O36 14:12-14:24 縄文時代前期曾畑式土器にみる九州～南西諸島の間活動 - 胎土分析から 矢作健二・橋本真紀夫(パリノ・サーヴェイ(株))・小田静夫(東京都教育庁)・江坂輝彌(慶応大・名誉)・前迫亮一(鹿児島県埋文セ)
- O37 14:24-14:36 南九州テフラにおける腐植酸Pg吸収強度と培養法による菌体数との対応 青木一恵・渡邊真紀子(東工大)・太田寛行(茨城大)・青木久美子(東工大)
 14:36-16:00 ポスターセッション・コーヒープレイク
- O38 16:00-16:12 中部琉球喜界島に分布する最も新しい更新世礁成サンゴ石灰岩のウラン系列年代とそれが意味するもの 大村明雄・八木洋江(金沢大)
- O39 16:12-16:24 湖沼堆積物によるチベット高原西部の完新世後期の環境変遷 福澤仁之(都立大)・李 世傑(南京地理湖沼研)・岩田修二(都立大)
- O40 16:24-16:36 中国東北地方，吉林省南龍湾マールの古環境復元 小森次郎・加藤めぐみ・山田和芳・福沢仁之(都立大)・尹 懷寧(遼寧師範大)
- O41 16:36-16:48 Palaeoenvironmental changes on the Gimhae fluvial plain since ca.3000 years, Korean Peninsula: with viewpoint of palynology Sangheon YI(AIST), Ju-Yong KIM(Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources), Sun YOON, Sora KANG(Pusan National Univ.), Yoshiki SAITO(AIST)
- O42 16:48-17:00 フィリピン・カガヤン河貝塚群の¹⁴C年代測定および食性分析 三原正三(九大・院・比文)・奥野 充(福岡大・理)・小川英文(東京外大)・田中和彦(敬愛大)・中村俊夫(名古屋大・年代セ)・小池裕子(九大・院・比文)
- O43 17:00-17:12 メコンデルタの堆積相と発達様式 斉藤文紀(産総研海洋資源環境)・TA Kim Oanh, NGUYEN Van Lap(ベトナム国立自然科学技術セ)・立石雅昭・小林巖雄・田辺 晋(新潟大)
- O44 17:12-17:24 ジオスライサーの技術的適用条件 原口 強(復建調査設計)・中田 高(広島大・地理)
- O45 17:24-17-36 活断層の多い地域で中規模地震も多く発生しているか 松田時彦(西南学院大)
 18:00-20:30 懇親会(教育学部生協食堂:エデュカ)

ポスターセッション 8月1日(水) - 8月2日(木)
 教育学部大会議室

- No. 題目・氏名
 P01 北海道東部温根沼湿地に分布する埋没泥炭層と過去数千年間の古環境変遷 - 大型植物遺体・花粉・珪藻化石群集の推移から - 澤井祐紀・藤木利之(学振研究員・日文研)・那須浩郎(総研大・国際日本研究)

- P02 大型植物化石・花粉化石・珪藻化石群集からみた最終氷期末期における井沢盆地の立地と植生の変遷 那須浩郎
(総研大・国際日本研究)・藤木利之・澤井祐紀(学振研究員・日教研)・百原 新(千葉大・園芸)
- P03 武蔵野の地形発達と水環境の変遷
..... 羽鳥謙三・角田清美(武蔵村山高)・加藤定男・久保純子(早稲田大)・細野義純(奈良大)
- P04 東京都の地形と土壌
..... 宇津川 徹・坂上寛一・鈴木創三・田中治夫(東京農工大・農)・浜田竜之介(江戸川大)
- P05 東京湾東岸縄文後期貝塚群における古地理と動物資源利用 - GISを用いた空間解析の試み -
..... 樋泉岳二(早稲田大)・津村宏臣(総合研究大学院大)・西野雅人(千葉県文化財セ)
- P06 道路状遺構と覆土 - 推定鎌倉街道 - 松田隆夫(府中市教育委員会)・建石 徹(東京芸大)・西野善勝(府中市遺跡調査会)・坂上寛一(東京農工大)
- P07 福井県敦賀市, 中池見の地質調査(その1)
齋藤礼子・北田奈緒子・宮川ちひろ((財)地域地盤環境研)・岡井大八・目堅智久(大阪ガス)
- P08 福井県敦賀市, 中池見の地質調査(その2)
宮川ちひろ・北田奈緒子・齋藤礼子((財)地域地盤環境研)・岡井大八・目堅智久(大阪ガス)
- P09 水月湖年縞堆積物から復元された歴史時代の環境変化と植物プランクトン群集の応答速度
..... 加藤めぐみ(都立大)・谷村好洋(科博)・福沢仁之(都立大)
- P10 完新世の相対海面高度記録から推定される西神戸沿岸域の隆起速度
..... 佐藤裕司(姫路工大・自然研 / 兵庫県・人博)・奥野淳一(東大・地震研)・中田正夫(九州大)・前田保夫(姫路工大・自然研)
- P11 芸予地震(2001)時の墓石の点・回転運動より見た潜在活断層 鹿島愛彦(松山東雲短大)
- P12 都城盆地の累積性黒ボク土における有機炭素含量, 植物珪酸体組成, ^{13}C 値および腐植組成
..... 井上 弦(宮崎大・農)・米山忠克(東京大・農)・杉山真二(古環境研)・岡田英樹(前筑波大・院)・長友由隆(宮崎大・農)
- P13 南九州火砕流堆積物のフィッシュン・トラック年代
..... 井村隆介(鹿児島大)・奥村晃史(広島大)・須貝俊彦(東京大)・檀原 徹(京都 FT)
- P14 大隅半島中部における完新世の環境変化
..... 永迫俊郎(都立大・院)・松下まり子(神戸大)・松島義章(神奈川県立生命の星・地球博)・松原彰子(慶應大)・奥野 充(福岡大)・森脇 広(鹿児島大)・中村俊夫(名古屋大)
- P15 「続日本紀」の噴火記録と隼人三島 大木公彦
(鹿児島大総合研究博)・奥野 充(福岡大)・三木 靖(鹿児島国際大)・二之宮ますみ・桑代 勲
- P16 古地磁気学的手法によって検出された鹿児島県指宿市水迫遺跡の赤色土の被熱の痕跡
..... 菊山浩喜(川崎地質(株))・下山 覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭(指宿市教育委員会)・西谷忠師(秋田大・工学資源)・(株)古環境研
- P17 種子島南部, 上中周辺における更新世含貝化石海成層とその層位
..... 田口公則(神奈川県立生命の星・地球博)
- P18 ネパール, カトマンズ盆地の湖成段丘堆積物中に見いだされた急速な湖水準の低下を示す堆積物
..... 酒井哲弥・高川智博(京都大・理)・田端英雄(岐阜県立森林文化アカデミー)・Ananta, P. Gajurel・Bishal, N. Upreti(ネパール, トリブバン大・地質)
- P19 中国東南部 Chen San 島の黄土・古土壌における Rb/Sr, Ba/Sr 値と古気候標識
..... 漆 富成・遠藤邦彦(日本大・院・地球)
- P20 西赤道太平洋の Coccolithophorids - RV/ 未来 MR99-K07 航海 -
..... 西田史朗(奈良教育大・地学)・筒井英人(金沢大・院・自然)
- P21 インター・キャリブレーションによる放射性炭素年代測定データの検証
..... ダーデンフッド(ベータアナリティック)・浅井和見・松山澄久(地球科学研)
- p22 ^{14}C 年代 - 暦年代較正データ (INTCAL98) と日本産樹木年輪の ^{14}C 年代の比較検定
..... 中村俊夫・福本浩士・丹生越子・小田寛貴・池田晃子・南 雅代・太田友子(名古屋大)・光谷拓実(国立奈良文化財研)・今村峯雄・坂本 稔(国立歴史民俗博)
- P23 浅海成堆積サイクルを利用した地殻の垂直変動の復元; 堆積サイクルの形成時期と垂直変動を交互に絞り込む手法の考案 白井正明・阿部信太郎(電中研・地質部)
- P24 小型 Geoslicer の開発とその第四紀研究への応用
..... 中田 高(広島大)・宮城豊彦(東北学院大)・高田圭太(産総研・活断層研究センター)

大会特別価格ブックセール

大会期間中の8月1日(水)～3日(金)に、例年好評の特別価格販売を行います。対象は第四紀研究のバックナンバーや第四紀露頭集などです。規模や価格は、会場でのお楽しみとします。なお、大会会場特別価格のため、特別価格での通信販売は行いません。

学会からのお知らせ(委任状のお願い)

総会に出席できない方は委任状を下記あてお送り下さい。
コピー(官製はがきに貼付でも可)または同様の文面でも結構です。

委 任 状

2001年 月 日

日本第四紀学会会長殿

氏名 _____ (署名または捺印)

所属 _____

私は議長(または _____ 氏)を代理人と定め、2001年度日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任します。

送付先：斎藤文紀(庶務幹事) 産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門
305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第7
Fax 0298-61-3747
e-mail: yoshiki.saito@aist.go.jp

TEFRATRACE (Towards a European Framework for correlating Records of Abrupt ENVIRONMENTAL CHANGE)

An International Workshop held under the joint auspices of the INQUA Commission for Tephrochronology & Volcanism and the INQUA Palaeoclimate Commission

15-20 April 2002

Department of Geography, Royal Holloway, University of London

At the 4th International Workshop of the INTIMATE (INTEgration of Ice, MARine and TERrestrial records for the Last Termination) programme held in Greenland earlier last year (2000), attempts were made to effect precise comparisons between palaeoclimate reconstructions for sites throughout the North Atlantic region, and to establish the magnitude of leads and lags between the records. Success in this exercise is vital if we are to understand the operation of the earth-ocean-atmosphere system during periods of abrupt (<50 years) climate change. Traditional approaches, such as radio-carbon dating, lack the necessary precision for this exercise.

An alternative approach is to use tephrochronology, since volcanic ash deposits effectively blanket the landscape instantaneously and provide time-parallel marker horizons. Using techniques recently developed for minerogenic sediments, including flotation and magnetic separation, the known distribution of some key tephra horizons have been significantly extended and traces of ash horizons not previously detected as visible layers have been discovered. In recognition of the importance of these developments, the INQUA Commission for Tephrochronology and Volcanism and INTIMATE (INTEgration of Ice, MARine and TERrestrial records); a core programme of the INQUA Palaeoclimate Commission are co-hosting a 6-day workshop, comprising a 2-day thematic workshop on tephra principles and applications (for which papers are invited), followed by a 4-day laboratory practical workshop on extraction techniques. For the latter, participants are invited to bring along material that spans periods of known volcanic eruptions (with a focus on Termination 1 sequences). The objective is to seek out new occurrences of tephra within these sediment sequences and to assess the temporal relationships between selected climatic events and tephra horizons. It is intended to publish the presentations and results of any new positive tephra identifications in a Special Issue of an international peer-reviewed journal. Attendance is limited to a maximum of 30 participants due to constraints of laboratory space.

Provisional Timetable

Thematic Workshop (15-16 April)

Talks on principles and applications of tephrochronology.

Invited presentations:

Dr. Valerie Hall (Queen's University, Belfast, U.K.) Prof. David Lowe (University of Waikato, New Zealand) Dr. Stefan Wastegård (University of Stockholm, Sweden) ,
Dr. Chris Turney (Queen's University, Belfast, U.K.) Dr. Nick Branch (Royal Holloway, University of London) Ms. Siwan Davies (Royal Holloway, University of London)

Afternoon of April 16: Visit to Windsor Castle

Laboratory Practical (17-19 April)

AM/PM: Hands on experience of flotation and magnetic separation techniques for microtephra horizon identification, including use of SEM.

Evening of April 19: Workshop dinner in the Picture Gallery, Royal Holloway, University of London.

Collation of Results (20 April)

AM: Comparison of palaeoclimatic and palaeoenvironmental datasets using tephra deposits as parallel time markers.

香港での国際集会のお知らせ

「IAS/SEPM Environmental Sedimentology Workshop: Continental Shelves - Processes, Record, Utilization and Management」

2002年1月7-10日に香港大学で、大陸棚における物質輸送、地層形成、環境問題を焦点にした国際ワークショップが開催されます。コンピーナーは、IGCP-396のリーダーだった香港大学Wyss Yim教授、風成堆積物や"Sediment transport and depositional processes"の教科書で有名なイギリスのKen Pye教授、米国の地層形成研究のリーダーのChuck Nittrouer教授の3名で、この他にも、モデリングに関して第一人者のコロラド大学のJames Syvitsuki教授が参加するそうです。世界を代表する40から50才前後の研究者が多く参加しますので、是非ご参加ください。参加者は50-80名を予定しています。またIASのspecial publicationからの論文集の出版を計画中だそうです。参加人数の多くない、泊まり込みに近い会合ですので、海外の著名な研究者と親しくなるチャンスです。若手の方の多数の参加を期待いたします。

斎藤文紀
産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門
e-mail: yoshiki.saito@aist.go.jp

First Announcement

IAS/SEPM Environmental Sedimentology Workshop: Continental Shelves - Processes, Record, Utilization and Management

Venue -	The University of Hong Kong, Hong Kong
Date -	January 7-10, 2002
Organiser -	Department of Earth Sciences, The University of Hong Kong
Sponsors -	International Association of Sedimentologists Society of Economic Paleontologists & Mineralogists International Geological Correlation Programme Project #396 Continental shelves in the Quaternary successor project (approval pending)

Continental shelves are expected to increase rapidly in importance for human utilization in the new millennium. It is therefore timely for this workshop to review what we have already learnt and to examine the step forward. Topics to be covered include -

- Erosional and depositional processes
- Shelf sequences and land-sea correlation
- Sedimentary record of global climate change
- Architecture, composition and properties of shelf sediments
- Exploration of economic mineral deposits
- Utilization including reclamation for airports, waste disposal, port and harbour facilities, offshore platforms, etc.
- Coastal management

This workshop will bring together sedimentologists, marine geologists, Quaternary geologists, coastal engineers and coastal managers to explore issues of continental shelf sedimentology and its applications.

Hong Kong is an ideal venue for this workshop because of the wide range of coastal engineering activities on the South China Sea inner continental shelf. Much information has been obtained from offshore investigations carried out for projects such as the new Hong Kong International Airport.

A full-day field excursion to Lantau Island including a ferry trip in Hong Kong Harbour, and a study of the drowned and partially drowned landslide deposits in Tai O Bay will be arranged.

The weather in Hong Kong in January is usually dry. Temperatures in the range of 8-18°C can be expected.

Presentation of papers -

Oral and poster papers are both invited. Each participant is encouraged to present one oral paper and one poster.

Programme -
 6th Jan. Sun. Arrival in Hong Kong and registration
 7th Jan. Mon. Scientific session and reception
 8th Jan. Tues. Scientific and poster session
 9th Jan. Wed. Full-day field excursion
 10th Jan. Thurs. Scientific and poster session, workshop dinner

Cost -
 Registration fee HK\$1,400 (inclusive of abstracts, reception, lunches, refreshments, field excursion and workshop dinner)
 Accommodation HK\$260 per day (double room sharing with breakfast)
 HK\$520 per day (single room with breakfast)

The current exchange rate is US\$1 to HK\$7-80. Note that in some countries economical air fare hotel packages may be available. Please check this out before booking accommodation with us. The venue is located on Hong Kong island.

Co-convenors -
 Charles Nittrouer E-mail: nittroue@ocean.washington.edu
 Ken Pye E-mail: k.pye@gl-rhbc.ac.uk
 Wyss Yim E-mail: wwsyim@hku.hk Fax: 852-2517 6912

Preliminary Registration Form (please return to Wyss Yim by e-mail/fax)
 IAS/SEPM Environmental Sedimentology Workshop on Continental Shelves - Hong Kong 2002

Surname _____ Other names _____

Title* Professor / Dr / Mr / Mrs / Miss

Address _____

Phone _____ Fax _____ E-mail _____

Provisional title of paper for oral presentation -

Provisional title of paper for poster presentation -

Accommodation required* Single room [] Double room []

Signature _____ Date returned _____

* Please tick.

IGCP-464 Continental Shelves during Last Glacial Cycle

(最終氷期の大陸棚研究：2001年-2005年)

第1回年会(2001.10.25-28, 香港)のお知らせ

今年2月に,最終氷期の大陸棚「Continental Shelves during Last Glacial Cycle」が,IGCP(国際地質対比計画)の464号のプロジェクトとして承認され,5ヶ年の研究計画として始まりました。提案者は,オーストラリアウーロンガン大学のAllan R. Chivas教授とイタリアローマ大学のFrancesco L. Chiocci教授です。1996-2000年に行われたIGCP-396「第四紀の大陸棚研究」の後継プロジェクトです。

本プロジェクト概要は以下のようにまとめられています。

The aim of the project is the definition of the palaeoenvironmental evolution of the continental shelves, leading to their present morphology, stratigraphy and sedimentology. The geological approach to the environment and to its global changes is in fact based on a complete understanding of the long-term cyclicity of natural systems. On the continental margins the leading factor is undoubtedly the very rapid changes in sea level that brought it from ca. -125m during the Last Glacial Maximum (ca. 20ka BP) to its present position in little more than 10,000 years at an average rate of 1m/century. The project will therefore be focused especially on the Last Glacial Maximum and to the following sea-level rise. In fact the LGM is a key event in Pleistocene/Holocene evolution, as it represents the main and latest extreme in sea-level and climatic trends at a global scale. The conditions at the LGM on continental shelves and their effects on coastal plains and continental slopes will thus be the "starting point" of the most recent and continuing environmental cycle.

各IGCPプロジェクトは通常年1回の会合を持ちますが,IGCP-464の第1回の会合が2001年10月25-28日に香港大学で開催されます。会合はINQUAの委員会の後援となっています。今回の会合では,以下のトピックに焦点が当てられる予定です。最終氷期の(1)最低位海水準,(2)古地理,(3)古気候,(4)層序,(5)文化遺産,(6)応用。

また第1回の会合ですので,IGCP-464の体制などについても議論される予定です。

申し込みの締め切りは,9月1日で,1-2ページの要旨を,香港大学のDr. WyssYimまで,ハードコピーとフロッピーを郵便でお送り下さい。Dr Wyss Yim,Department of Earth Sciences, The University of Hong Kong, Pokfulam Road, Hong Kong SAR, China。書き方は以下の通りです。

The abstract must be sent to Wyss Yim via electronic mail as MSWord (or RTF) file with the following format:

- (1) Layout: A4 paper (210mm x 297mm), left and right margins 3.8 cm, top and bottom margins 4.8 cm, line spacing 14 pt
- (2) Font: Times New Roman, (but the Title size 12 pt; affiliation, bibliography and captions size 9 pt)
- (3) Title: Centred capital, bold font size 12 pt
- (4) Authors: Centred, not capital font size 10 pt
- (5) Affiliations: Centred not capital font size 9 pt
- (6) Text: justified to the left; new paragraph indent 0.5 cm font size 10 pt
- (7) Bibliography cited in the abstract: (Yim, 2000, Yim and Tovey, 2001, Yim et al., 2002) font size 10 pt
- (8) Bibliography list: Author Surname, Author Initials, (year), title. journal name, vol. , pages.
- (9) Figures (if necessary) and tables: with captions (font size 8 pt) should be left-right centred and of legible quality.

登録や宿の手配など,詳細をご希望の方は,Dr. Yim <wwsyim@hkucc.hku.hk> また,斎藤文紀 <yoshiki.saito@aist.go.jp : 産総研海洋資源環境 fax0298-61-3747> までお願いいたします。またIGCP-464のNewsletterを受信希望の方は,斎藤までメールでご連絡下さい。LeaderからのNewsletterを転送いたします。

IGCP-437 Sea-level changes and neotectonics

The following is an announcement for the Third International Conference of the International Geological Correlation Programme (IGCP) Project No. 437

Conference Theme: 'Sea-level changes and neotectonics'

To be held in Durham and Fort William, Scotland, UK.

From 4 - 12 September 2001

For the provisional programme and details of how to register please follow the link below.

<http://www.geography.dur.ac.uk/conferences/IGCP/index.htm>

公開シンポジウム

日本人と日本文化の源流

- 日本先史時代の自然と文化的環境 -

主催：日本学術会議 第四紀研究連絡委員会

日時：7月27日（金）午前10時から

場所：日本学術会議講堂

（営団地下鉄千代田線「乃木坂駅」5番出口 徒歩1分）

プログラム

1000-1010：あいさつ（研連委員長 町田 洋、東京都立大学・名誉教授）

1010-1040：自然環境の変遷復元（小泉 格、北海道大学・名誉教授）

1040-1110：水田稲作農耕による食生活・生業形態の変化（米田 穰、国立環境研究所）

1110-1140：日本列島における栽培植物の起原と渡来（佐藤洋一郎、静岡大学）

1140-1300：昼休み

1300-1330：人骨形態から見た日本人の起原と形成（馬場悠男、国立科学博物館）

1330-1400：古人骨 DNA から探る日本人の起原（植田信太郎、東京大学大学院）

1400-1430：HLA 遺伝子群からみた日本人の形成（徳永勝土、東京大学大学院）

1430-1445：休息

1445-1515：抜歯風習からみた日本文化の起原（春成秀爾、国立歴史民俗博物館）

1515-1545：黒潮圏の石器文化（小田静夫、東京都教育庁）

1545-1630：パネル討論・質疑応答（馬場悠男・春成秀爾・小泉 格）

（世話人代表 小泉 格）

第18期・第2回第四紀研究連絡委員会 議事録

日時：2001年2月19日(月) 13:30～17:00
 会場：日本学術会議 第5会議室
 出席：米倉伸之 赤羽貞幸 海津正倫 大村明雄
 小野 昭 小泉 格 斎藤享治 斎藤文紀
 町田 洋 真野勝友 吉川周作
 欠席：坂上寛一 中村俊夫

1. 報告(米倉伸之)会議終了後資料配付
 - 1) 日本学術会議第18期活動報告
 - a 第3回連合部会(2001年2月15日)
 - ・会議内容公開のための規則改正に関する審議.
 - ・人文・社会科学の役割を議論するため会員に意見が求められている.
 - ・「日本学術会議のあり方委員会(仮称)」を会長,副会長および部会長で構成し総合技術会議における日本学術会議のあり方の審議に対応する.
 - b 第5回第4部会(2001年2月15日)
 - ・平成13年度国際会議代表派遣旅費配分額を決定.
 - ・平成15年開催の国際会議共同主催に申請があった10件の内,第4部関連の9件について,優先度に基づく投票を行った.
 - ・「タンパク質の構造・機能研究の総合戦略の提案」(第4部会および第7部会)および「国立大学臨海実験所等の再編に関する提言」(動物科学研究連絡委員会)の対外報告書を審議後了承.
 - ・科学研究費補助金分科(理学 地球科学分科)細目別対応研連.
 - 地質学(窓口研連,地質学:対応研連,地質科学総合・第四紀)
 - 層位・古生物学(窓口研連,古生物学:対応研連,地質科学総合:地質学,第四紀)
 - 岩石・鉱物・鉱床学(窓口研連,鉱物学:対応研連,地質科学総合)
 - 地球化学(窓口研連,地球化学・宇宙化学)
 - ・科学研究費補助金「複合領域」に属する分科細目の見直し. 文部科学省では,複合領域の分科細目を見直し,各部にまたがる複合的・総合的分野について新たな分科細目を新設することが検討中である.それに対し,学術会議からも意見を述べるため,今後は部会や研連でも議論.
 - c 第18期第1回地質科学総合研究連絡委員会(2001年1月29日)
 - ・委員長に米倉委員,幹事に斎藤・山中委員を選出.
 - ・第4部における研連の見直し. 新しい研究分野に対応するための研連の枠と委員定員を確保するために,既存の研連の統合再編が要請されているが,新設の研連についての見通しを明らかにすべき等の議論があった.
 - ・科学研究費補助金分科細目別対応研連について3会員からの提案を了承.
 - ・日本技術者教育認定機構(JABEE)に「地質工学」分野を新設する件について公文委員から進行状況と,2001年6月4日に地質科学関連学協会連合・地質学研究連絡委員会共催のシンポジウム「地質工学および関連分野における技術者養成と大学教育(仮称)」が日本学術会議において開催予定であることが報告された.
2. 議事
 - 1) 研連の見直し
 - ・地質科学総合研連数が決まっているため,今後新規枠を設けるには,既設研連からの委員定員の振替え,課題別研連の統合,あるいは一部課題研連の専門委員会化なども視野に入れた議論が必要か.
 - ・第5部(工学)では,課題研連の専門委員会化が議論され,第7部(医学・歯学・薬学)は研連の大幅な見直しを行っている.現在,第4部の研連を積極的に削減する

- ような案は出ていないが,他分野が新分野構築のための協力も視野に入れた動きをしていることを考慮すれば,何らかの対応策を議論しなければならない.
- ・第四紀研連は,今後は国際組織(INQUA)の活動に対応する国内組織としての役割だけでなく,総合的・学際的な第四紀学の主体性をアピールし,理解を求めてゆく努力を最優先すべきで,そのためのシンボルとしてINQUAを位置付ける.
- ・それには,第四紀学会を“第2学会”と考える会員の意識改革と本学会の新たな活動内容を考えることが必要である.
- 2) 科研費分科細目の見直し
 - ・地球科学分科の中に新しい細目をつくるため知恵を出して欲しいと望まれている.なお,一つの細目には最低100件以上の申請が必要である.
 - ・時限付きの細目として「自然史」を提案することを考えてみては?,但し,それには申請件数が100件以上確保できるか等の実体調査が必要.
- 3) 活動計画
 - a 研究活動の推進について
 - ・活動内容として,第四紀学普及を含む一般的な活動の活発化・INQUA 招致問題を検討するWG 支援・第四紀学に関する研究教育体制の見直し・研連主催のシンポジウムの開催.
 - b シンポジウムの企画と実施
 - ・小泉 格委員から,今年度に第四紀研連シンポジウムとして,「日本先史時代の自然と文化的環境 - 日本人と日本文化の源流 -」が提案され,2001年夏期に学術会議で開催することを承認.
 - ・小池裕子氏から,分子古生物学関連のシンポジウムが提案されている.
 - ・町田 洋委員から,第四紀学会と研連が合同して,「21世紀の第四紀研究」,“第2学会”意識を打破するための将来像をまとめた白書の作成を目指しては?
 - ・その他に,「海と陸のリンク」や「古海洋と陸上の問題」が議論できるシンポジウムの提案に加え,編年論に比べて地域論が遅れているとの観点から,「日本列島に何時から人類が住み着いたか - 確実なデータを新しい方から遡る -」のような内容のシンポジウムも提案された.
 - c 研究教育体制の見直し
 - ・第四紀学会では30周年記念として「日本の第四紀学」が,40周年記念に「第四紀地図」が発表された.新しい「第四紀学」の教科書がない今,2006年に迎える50周年記念事業として出版してはどうか,2007年INQUA開催予定の前年としても意義深い.
- 4) その他
 - a 2007年INQUA日本招致検討に関するワーキンググループ第1回会合報告(町田 洋)
 - ・今期のメンバーとして,昨年までのメンバー(太田陽子・小野 昭・小野有五・小池裕子・町田 洋・熊井久雄・斎藤文紀・平川一臣・米倉伸之)に,今期から研連委員の斎藤享治・中村俊夫の両名が加わった.
 - ・INQUA 招致までのスケジュール(案)
 - 2001.8 第四紀学会鹿児島大会迄にメインテーマ等を決定する.
 - 2002.8 第四紀学会 招致提案および国内小委員会の組織化.
 - 2003.8 米国 Reno 開催の第16回会議 招致提案.
 - 2005? 学術会議への予算要求.
 - ・日本開催のINQUA会議の理念(主テーマ)を決定し,Local organizing committeeを早急に組織化する.
 - ・前回のDurban大会の反省をふまえ,主テーマに関係した講演を半減し,他の広い分野にも十分な時間をとり発表の機会を設けたい.
 - ・次回研連開催日にWGを開催する.
 - b 第四紀学に関する研究教育体制の見直し

- ・各大学、大学院、および研究所等の、何処でどんな研究が行われているか、あるいは何ができるのか」に関する情報を、研連でinterdisciplinary dataとしてまとめる。
- c JABEEへの対応
- ・遠藤邦彦(日本大学)にformat等をお考えいただき、対応する。(大村明雄)

第18期・第3回古生物学研究連絡委員会 議事録

日時：2001年6月18日(金) 13:30～17:00

場所：日本学術会議 第4部会議室

出席：斎藤常正会員、野田浩司、小泉 格、長谷川善和、小笠原憲四郎、八尾 昭、加瀬友喜、辻誠一郎、北里 洋、大路樹生 各委員

欠席：瀬戸口烈司、西田 治文 各委員

学術課：中野事務官、小野寺事務官

報告事項

委員会の公開・非公開に関する議論が行われた後、以下の議題が話し合われた。

1. 学術会議関連(齋藤)
 - ・研究連絡委員会の統廃合：第4部内の研連の統廃合を積極的に行い、包括的分野、新分野に対応する研連を新たに作るため、現在の研連の統廃合を進め、空き研連を4つ、定員で計40～50名を確保する方針が紹介された。これに呼応するため、斎藤・青木両氏による地質学関連の研連の再編案が示された。これによると、古生物学研連は専門委員会として地質学研連のもとに存在することになる。一方研連を「研連」の形で存続させることになると、一律10%の定員減を求められることになる。今後議論が必要である。
 2. 古生物タイプ標本について(小笠原)
 - 第1巻が完成し、6月29日～7月1日の日本古生物学会で販売される。また第2巻は原稿を9月に締め切る予定である旨、紹介された。
 3. 平成14年度科学研究費審査委員(細目層位・古生物学)候補者の選出
 - 上記の選出(候補者3名、補欠3名)を5月中に行った。順位は以下の通り。1位 安藤寿男、2位 天野和孝、3位 野村律夫、4位 大路樹生、5位 北里洋、6位 長谷川四郎。地質学関連分野で候補者の所属の重複が今年度見つかかり、各関係研連委員長の集まりがもたれ、委員の調整が行われた。今後、このような調整が必要と思われる旨、斎藤氏から紹介された。また、今後層位・古生物学の候補者をどのような分野(学会)から推薦を受けて選考するか、議論が必要である。
 4. 博物館学芸員などの科研費申請資格の現状と今後の対応について
 - 博物館の現状、自然史学会連合・動物研連などによる取り組みが紹介された。最近行われた自然史学会連合による学芸員へのアンケート結果を参照し、今後取り組みを考えていくことにした。
 5. これからの活動
 - 古生物学の将来の展望、関係分野への貢献、社会へメッセージなど、これからの取り組みに関して意見が出された。また、遺跡から出土する動植物遺体の重要性とその取り扱いについて、意見が出された。
- 今回は10月22日(月)13:30からの予定。

第1回 第四紀研究連絡委員会INQUA招致の検討

に関するワーキンググループ会議 議事録

日時：2001年2月19日(月)10:30～12:30

会場：日本学術会議会議室

出席：町田 洋、太田陽子、小野 昭、熊井久雄、小池裕子、斎藤文紀、米倉伸之、斎藤享治

欠席：小野有五、中村俊夫(敬称略)

1. 報告

資料「INQUA日本大会招致の検討に関するワーキンググループからの報告とお願い」に基づき、太田前委員長より前期からの引き継ぎ事項の説明があった。

2. 審議

1) 委員長の選出

委員長に町田 洋氏が選出された。なお、書記は輪番とすることとした。

2) 委員の辞退

平川一臣氏の委員辞退が了承された。

3) INQUA 招致について

-1 理念と統一テーマ

- ・開催理念として、INQUAに対する日本の貢献、若い研究者に対する刺激と育成のほか、日本および世界の第四紀研究の発展のために、これまでINQUAに参加しなかったが地球環境変遷問題や第四紀学に関連する諸分野の第一線の研究者に参加を呼び掛け、INQUAを充実させる。

- 統一テーマは、多くの人が参加でき、さらに現代の要請に対応するものとした。例として、

「Quaternary Research for Human Sustainable Development」

「Environmental and Cultural Diversity in the Quaternary」

「Quaternary Research (contribution) for Environmental Crisis, Natural Disaster, and Human Impact」

があげられた。今後更に検討する。

-2 開催地と財政

- ・資料「会議名称：国際第四紀学研究連合第17回大会」に基づき、開催地と会議参加者1000名と仮定した場合の経費見積について説明された。札幌、つくば、東京、大阪、神戸での会議施設等使用料については600～2000万円の幅がある。業者委託の場合平均的総経費見積額はおよそ6000万円である。登録費3万円として3000万円、補助金1000万円の収入を見込むと、募金等で2000万円が必要である。

- ・これまで積極的な意向を示されたのは小野有五氏である。このため町田委員長から再度打診し、次回の会合に出席を依頼することとした。

-3 今後のスケジュール

- ・第四紀学会のホームページなどで、INQUA招致に関する委員の意見を聞くこととした。

- ・5月下旬～6月上旬の研連開催時、INQUA対応の研究委員会の責任者などを加えた拡大ワーキンググループ会合を開催することとした。(研究委員会 層序：熊井久雄、海面変化：大村明雄、ネオテク：奥村晃史、テフラ：鈴木毅彦、年代：中村俊夫、古土壌：坂上寛一)(PAGES：小野有五、松本英二、三上岳彦、IGCP：海津正倫、斎藤文紀、GLOCOPH：小口高、南極：三浦英樹、低温研：福田正巳、古海洋：大場忠道、小泉格、考古：小野昭、人類：小池裕子、地形学連合：斎藤享治)

- ・8月の第四紀学会鹿児島大会の総会時にも、INQUA招致について意見を求める。その意見をもとに、秋季の研連で、招致するかどうかを決定する。招致に決定した場合、国内小委員会を組織する。(斎藤享治)

2000年度第7回幹事会議事録

日時：5/20(日) 10:30-1300

場所：筑波大学 学校教育学部 E233(2階)

出席者：熊井久雄、真野勝友、斎藤文紀、中村俊夫、鈴木毅彦、松浦秀治、奥村晃史、中川庸幸

欠席者：米倉伸之、福澤仁之、竹村恵二、小田静夫

報告事項

<庶務>

- ・評議員選挙結果を報告した。

<会計>

- ・予算使用状況を報告した。名簿への掲載広告の申し込みが少ない。前回掲載した業者などをお願いする必要がある。

<渉外>

- ・自然史学会連合関係。連合シンポジウム「遺体が語る自然史」2001.11.10開催
- ・地球惑星科学関連学会関連。運営機構に連絡会の内容が今後は移る可能性が検討されている。

<渉外>

- ・鹿児島大会の進捗状況の報告，第3報内容の報告。

審議事項

<庶務>

- ・日本粘土学会から共催願「第45回科学討論会平成13年9月13-14日，東洋大学朝霞キャンパス」を承認した。
- ・ESR応用計測研究会。池谷元何幹事からの国際シンポジウム「ESR放射線量計測と年代測定の新戦略」国際シンポジウム(兼、第17回ESR応用計測研究

発表会) International Symposium on New Strategy of ESR Dosimetry and Dating, 2001年10月25日(木)-27日(土)の協賛願いを承認した。

- ・神戸大学附属図書館長 中村 道から「阪神・淡路大震災関係資料」として「第四紀研究」36(4) 200.8の寄贈願いがあり，承認された。
- ・日本学術会議土壌・肥料・植物栄養学研究連絡委員会から「土壌科学小委員会」への参加の呼びかけがあり賛同することにした。
- ・東京大学出版会から，書籍のパンフを会員に送付したいので名簿使用(今回は送付用のシール30円を購入)の願いがあり，承認された。

<会計>

- ・8月上旬に大会が開催されるため，予算の締めを6月末に行うことにした。また監査は7月中旬を予定。

<行事>

- ・鹿児島大会第3報の内容に関して検討した。

<広報>

- ・大会プログラムを早めに送付するため，次号の通信を7月10日発送とし，準備を行うことになった。原稿は後藤委員宛に送ることになった。
- ・次回の幹事会は6月23日午後の予定

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史

〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3

kojiok@hiroshima-u.ac.jp

Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

次号は9月上旬原稿締切 - 10月上旬発行予定です。

インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>で最新情報をチェックして下さい。